

第4回 十勝川外減災対策協議会 議事概要

日時：平成30年2月27日（火）14:00～15:30

会場：音更町 共栄コミュニティセンター 大集会室

委員：34名

帯広開発建設部長、北海道十勝総合振興局長、北海道十勝総合振興局副局長、釧路地方気象台長、帯広市長(副市長)、音更町長、士幌町長、上士幌町長、鹿追町長（町民課長）、新得町長（副町長）、清水町長（参事）、芽室町長、中札内村長、更別村長、大樹町長（副町長）、広尾町長（副町長）、幕別町長（防災環境課長）、池田町長、本別町長、足寄町長、陸別町長、浦幌町長、北海道警察釧路方面本部警備課長、帯広警察署長（地域官）、池田警察署長（警備係長）、本別警察署長（警備係長）、新得警察署長（警備係長）、広尾警察署長（警備係長）、陸上自衛隊第5旅団第5旅団司令部第3部長、とちろ広域消防局長、日本放送協会帯広放送局長、北海道旅客鉄道株式会社取締役釧路支社長（副課長）、北海道電力株式会社新得水力センター所長、電源開発株式会社東日本支店上士幌電力所長

※豊頃町長は欠席

※括弧内は代理出席

<議事内容>

- ・十勝川外減災対策協議会規約改訂（案）について
- ・幹事会の報告
- ・北海道管理河川を加えた取組方針（案）について
- ・今後のスケジュールについて
- ・情報提供

<議事概要>

更別村長 昨年、自衛隊員だった北海道の専門指導員を派遣いただき、対策本部設置訓練を行い、有効な訓練だったと感じた。特に、タイムラインやハザードマップの整備、携帯電話が不通となった際の連絡方法の確保等が重要と感じた。

振興局長 今後も関係機関と協力して訓練を進めていきたいと考えている。

足寄町長 想定最大規模の浸水想定区域に対応したハザードマップを作成すると足寄町全域が浸水する結果となった場合、全町民に知らせるべきか迷っている。水害リスクが大きすぎて、町民がいなくなるのではないかとの懸念がある。

本別町長 想定最大規模のハザードマップの公表が住民に不安を与えることになるのではないか。

事務局 想定最大規模のハザードマップの作成、周知は義務化されており、想定最大規模

の水害リスクを周知踏まえた防災体制をしっかりと構築いただきたい。

池田町長 池田町は過去から水害の多い地域であるが、それを理解して住民は住んでいると理解している。想定最大規模の浸水想定区域についてどのように算出しているのか教えて欲しい。

事務局 北海道は明治以降のためデータが少ないため、現存するデータ実績の降雨や確率計算で求めている。東日本大震災の大津波が起こったように、想定外では済まされない事象が起こりうるという観点から、想定最大規模のハザードマップの公表は行うべきと考える。

帯広開建部長 浸水想定区域の「中高頻度」、「高頻度」を示している資料も参考にされたい。

芽室町長 想定最大規模の降雨による洪水への対策は考えられているか。

事務局 計画規模はハード整備を、想定最大規模はソフト対応すべきと考えている。

足寄町長 1/50、1/30 の洪水浸水想定区域を公表する理由は、土地規制等の制約をかけるといった意味もあるのか。

事務局 都市計画を検討するうえでの基礎資料や企業等が洪水のリスクを的確に把握するためのものである。

池田町長 平成 28 年の出水では、十勝川中下流域の浚渫等の治水事業効果により、氾濫を回避できたと聞いた。このような治水事業の効果を氾濫面積がどれだけ減ったかなどの数値で示して地域住民に知らせるべきと考える。

浦幌町長 国の洪水浸水想定区域は公表されているが、北海道は平成 31 年度までに公表するとされていて、ハザードマップをいつ作成すべきか迷っている。

事務局 予算の配布等の点から北海道の洪水浸水想定区域は平成 31 年度までに作成するとしかお話しできない。防災の観点から早期の作成が必要と考えているが、いつ作成するかは自治体にお任せすることになる。